

可喜庵(かきあん)の茅葺屋根を葺き替えるにあたって

#### ▼ 可喜庵とは—

ここ能ヶ谷の地に約 150 年前に建てられた隠居小屋がはじまりです。

周辺は鉄道や幹線道路の開通で様変わりし、母屋や庭だった跡の記憶はおぼろげなものですが、幸運にも生き延びたこの家を代々住み継いできました。

どこまでも広がっていた、家の周りの田んぼや小高い緑が急速に小さくなってゆき、いつしか小田急線の車窓から眺めるのも瞬きもゆるさぬものとなってしまいました。

正月にはどんど焼きに集い、視界の広がりを与え続けてくれた田んぼも造成の境界線がひかれることになったそうです。

#### ▼なぜ茅葺屋根を葺き替えるのか—

この家は 150 年の時を生き抜いてきました。しかし、それはその時々手入れをしてきたからです。「屋根」というのは「家」を「家」という形たらしめる重要な部分です。空から町を見渡すと、その町の性格を現すのは、連なる私達の住まいの屋根です。つい一世代ほど前まではあたり前に緑の中に点々とあった茅葺屋根の佇まい。今は鶴川でも数軒を数えるのみとなったようです。茅葺古民家といえ、農村の象徴的建物です。ですから「村」が機能していた頃はやるべき時期がきた家を持ち回りで修理してきました。もちろん建てるのも地元の棟梁と地元の材料で、村中の男衆・女衆、総力を合わせての仕事でした。子供から年寄りまで皆が参加する祭りでもありました。ことさら「地域」などと声高に呼びかけずとも隣の暮らしや人の気持ちが見えていたし、自然に声を掛け合っていました。いつしか失われてしまった日本の習慣のひとつです。今、手元に大工と身近に職人を揃え、目の届く範囲で、ひとつひとつ施主のために家をつくっていますが、その家を守り合う隣近所の関係があまりにも薄くなっていることに非常に寂しさを感じます。

茅葺の家は今の日本の法律ではもう建てたくても新しく建てることはできないものになってしまいました。ですから、職人も材料も今では一般産業としては成り立たなくなり、文化財のような存在になりつつあります。このような中で個人の家の屋根を茅で葺き直すのは正直言って、容易な事ではありません。しかし今このように決心させたいいくつかのことがあります。

まず一つ目は先代である鈴木重吉(現会長・鈴木工務店二代目)の「遊びは大事だぞ。」という言葉です。いちどは鉄筋の建物に建て替えようかと考えたこともありました。しかし、そうしなかったのは、この言葉が道を照らす大きな光となっていることに間違いのないからです。

そして二つ目には第二の故郷、英国での遊学経験からです。石造りと木造の違い、甕生と無常の違いはあるにせよ、古いものに上手に工夫を加え、自分らしくするやり方には豊か

な人生観を見せ付けられる思いがし、目を見開かされました。古いものを打ち消して新しいものを追い求める姿勢には、老いを否定するものを嗅ぎ取らずにいられません。

もっと「遊ぶ」ことに積極的になると、成熟した社会と皆が認めることができるのではないのでしょうか。

#### ▼この先—

自邸だった可喜庵を生活の場から集いの場ヘリノベーションしたのは3年前でした。

その間少ないながらもここを見に訪れてくださった方々からいろんな言葉をかけられました。

まず、最初に驚かれることは、この家がこの地面の上にとずっと建っていたものであり、最近の流行趣向ではないということです。最近古い民家を買って趣味の良い飲食店などとして活用する例が増えています。やっとな日本人も身近な古い物などに積極的に目を向けるようになってきたのだと感じます。しかしこのような例と可喜庵は性格が異なります。「可喜庵を料理店にしたらどうか。」という声も多くいただきます。魅力的な面もよく分かりますが、何となくじっくり馴染めないのです。

可喜庵らしさとは何でしょうか。ここでもう一度考えてみることにしました。

たてもの跡の博物館のように、ただ物として器だけを鑑賞させるのではなく、偉人の旧居のように時を止めて見せることでもない。

しかし、過去を切り離して全く別の営みの場とすることは、もっと違う気がします。

「ここがこうして残っているのは東京だからでしょうね。」とおっしゃる方もありました。地方の田園風景の中には多くの古い茅葺にトタンを被せたり、アルミサッシを取り付けた風情が失われた姿が惜しまれているというのです。「もしこんな風に美しく手を入れれば、“古くて暗くて寒い家じゃ嫁が来ないから”とあら隠しの安普請な改築などしなくてすむでしょうに。」というお話に、実生活のモデルとしての役割の大きさを感じずにいられません。

ここは、つい数年前まで先祖代々住んできた家族の営み・歴史の堆積する場所です。しかし幸いにもこのようにして残ってきたのは家業があつてこそということは見逃せない点です。ですから、やはり建築とかけ離れた使い方はしたくありません。

私どもが本職として訪れる方へご提供できるもの。それはやはり「家」や「暮らし方」についてその心地よさを分かち合うことではないのでしょうか。四季折々に私たち日本人の細やかな感覚を呼び覚ますような空間であり続けることが、ここの役割であり、使命ではないかと思っています。

#### ▼鈴木亨プロフィール

～南多摩郡鶴川村字能ヶ谷に生まれる

1971～武蔵工業大学建築科広瀬謙二研究室

～渡欧

～渡英ゴールドフィンガー（007・ゴールドフィンガーの題名は自分から、と本人は話していました。）設計事務所勤務。

シェパード・ロブソン設計事務所勤務（レンガ造倉庫をモダンにリノベーションした事務所でした。）

1976～帰国。鈴木工務店を継ぐ

茶室「丹宵庵」を設計・施工。

OMソーラー加盟。大工をかかえる従来の形を守りながら、近年話題の耐震・地盤・保証にいち早く取り組み、デザインを精考した独自の家づくりを続ける。

#### ▼ 茅葺き替えへのお誘い

##### 1. 茅葺き替え体験会（有料）

職人の指導の下、実際に屋根の上へ上がって茅を葺きましょう。

##### 2. 古茅解体お手伝いボランティア

ものは壊すときでなければその作りを理解することはできません。短い期間ですが、このときだけ見ることができる姿は面白い。

たくさんの人手が必要です。「協力したい」という気持ちさえあれば、誰でもできます。

##### 3. 見学・スケッチ・撮影

日々変化する屋根の形や、職人さんの小気味よい身のこなしは見るだけでも本当に楽しいものです。

#### ▼ 追記

葺き替えは10月末で完成です。

新年に向けてオープンイベントを計画中。

お問い合わせは、鈴木工務店・可喜庵（担当：畑）までお願いいたします。

〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷町740番地 TEL.042-735-5771 FAX.042-735-3323

メール：[info@suzuki-koumuten.co.jp](mailto:info@suzuki-koumuten.co.jp)

HP：[www.suzuki-koumuten.co.jp](http://www.suzuki-koumuten.co.jp)